

整備事例の視察にあたり

本日は、みきっ子未来応援協議会 第1回子育て環境部会（大型遊具整備事例視察）へのご参加ありがとうございます。

遊具整備にあたっては、国が様々な観点から安全確保に関する指針を定めています。

専門的なことは、分かりづらいですが、視察にあたって着眼点の参考となる内容を抜粋しましたのでご一読ください。

以下「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」から抜粋

子どもと遊びの重要性

子どもは、遊びを通して自らの限界に挑戦し、身体的、精神的、社会的な面などが成長するものであり、また、集団の遊びの中での自分の役割を確認するなどのほか、遊びを通して、自らの創造性や主体性を向上させてゆくものと考えられます。

このように、遊びは、すべての子どもの成長にとって必要不可欠なものです。

子どもの遊びの特徴

子どもが遊びを通して冒険や挑戦をすることは自然な行為であり、子どもは予期しない遊びをすることがあります。

また、子どもは、ある程度の危険性を潜んでいる遊びに惹かれ、こうした遊びに挑戦することにより自己の心身の能力を高めてゆくものであり、子どもの発育発達段階によって、遊びに対するニーズや求める冒険、危険に関する予知能力や事故の回避能力に違いがみられます。

子どもの遊びと遊具

遊具は、色んな遊びの機会を提供し、子どもの遊びを促進させ、子どもにとって魅力的であるばかりか、その成長に役立つものでもあります。

また、子どもは、さまざまな遊び方を思いつくものであり、遊具を本来の目的とは異なる遊びに用いることもあります。

リスクとハザード

子どもは、遊びを通して冒険や挑戦をし、心身の能力を高めていくものであり、それは遊びの価値のひとつですが、冒険や挑戦には危険性も潜んでいます。

子どもの遊びにおける安全確保に当たっては、子どもの遊びに潜む危険性が遊びの価値のひとつでもあることから、事故の回避能力を育む危険性あるいは子どもが判断可能な危険性である「リスク」と、事故につながる危険性あるいは子どもが判断不可能な危険性である「ハザード」とに区分されます。

遊具の安全確保に関する基本的な考え方

遊具の安全確保に当たっては、子どもが冒険や挑戦のできる施設としての機能を損なわないよう、遊びの価値を尊重して、リスクを適切に管理するとともにハザードの除去に努めることを基本とします。

公園管理者は、リスクを適切に管理するとともに、生命に危険があるか重度あるいは恒久的な障害をもたらす事故（以下、「重大な事故」という）につながるおそれのある物的ハザードを中心に除去し、子ども・保護者等との連携により人的ハザードの除去に努めるものとします。

子どもと保護者は、遊びには一定の自己責任が伴うものであることを認識する必要があり、保護者は、特に、自己判断が十分でない年齢の子どもの安全な利用に十分配慮する必要があることを認識しなければなりません。

公園管理者と保護者・地域住民は、連携し、子どもの遊びを見守り、ハザードの発見や事故の発生などに対応することが望まれます。

遊びの価値の尊重

- ①完全にリスクを除去することは、事故の回避能力を育むといった点から問題があり、遊具が子どもにとって魅力的かつ有益であるためには、子どもの発育発達段階に応じてリスクに挑戦できる機能を備えているものであることが必要です。
- ②安全性を重視した遊具であっても、それが子どもにとって面白味のない構造や機能であれば、利用されなくなるか、危険な方法で利用されるおそれがあります。
- ③遊具は、遊びを通して、より多様な直接体験を得られるものであることが望ましいです。遊具の計画に当たっては、周辺の遊び場の状況、子どもの実態、気象条件などの地域や土地の特性に応じた地域の実状が尊重されるべきであり、最低限の安全は確保した上で、利用状況や子ども及

び地域の実状を踏まえて柔軟に対応する必要があります。

- ④公園管理者が事故対策に過敏になるあまり、過度に安全性を重視した遊具の計画・設計や利用指導などを行うと、子どもが自由に遊ぶことができる空間や冒険、挑戦などが可能な遊具が減少して発育発達を阻害するなど、子どもの不利益につながるおそれがあるので配慮することが必要です。

参考（遊びの形態と遊具の例）

- ・ 揺動系（ぶらんこ、スプリング遊具）
遊具の一部が上下・前後・左右に揺動する動きで遊ぶ。
- ・ 上下動系（シーソー）
遊具の一部が上下する動きで遊ぶ。
- ・ 回転動系（回転ジャングルジム）
遊具の水平方向に回転する動きで遊ぶ。遠心力がかかった状態で遊具に掴まっていることができる筋力が必要である。
- ・ 滑走系（ロープウェイ）
遊具の一部が水平方向に走行する動きで遊ぶ。走行中、可動部に掴まっている必要があり、掴まって全身を支えることができる筋力が必要である。
- ・ 滑降系（すべり台）
遊具は可動部を持たない。子ども自身の滑り降りる動きで遊ぶ。
- ・ 懸垂運動系（ラダー、鉄棒）
基本的には遊具は可動部を持たない。子ども自身がぶら下がったり、移動したり、回転する動きで遊ぶ。ぶら下がることのできる筋力が必要である。
- ・ 登はん運動系（ジャングルジム、登はん棒、クライムネット）
遊具は可動部を持たない。子ども自身の昇り降りや移動する動きで遊ぶ。よじ登ることができるだけの筋力が必要である。
- ・ 跳躍系（空気膜構造遊具）
遊具の反発力を利用し、子ども自身の飛び跳ねる動きで遊ぶ。
- ・ 平衡、腹這い、その他運動系（プレイウォール、平均台）
遊具は可動部を持たない。子ども自身の歩行、くぐり抜けなどの動きで遊ぶ。
- ・ 複合系（複合遊具、石の山・コンクリート製の山）
上記の遊びの形態の組み合わせで遊ぶ。

視察場所 姫路市御立公園（姫路市御立4丁目 1766-1）

整備概要 旧御立交通公園を、新たに「林の中でゆっくりと・・・」を計画コンセプトに大規模なリニューアルを行った公園。

◆プロポーザルで企画提案されたイメージ図



◆実際に公園に整備された遊具（イメージ図を基に施工）



視察の感想・ご意見

- 面白いと感じた遊具はありましたか？ また、どういうところが面白いと感じましたか？（設計で工夫していると思ったつくりなど…）

- 危険だと感じた遊具のつくりはありましたか？

- 遊具以外で、三木市でも整備したら良いと思う設備等がありましたか？

- その他

委員氏名 _____

※この用紙は、視察終了後に回収させていただき、次回の子育て環境部会で活用させていただきますのでご了承ください。

視 察 報 告 書

参加者	みきっ子未来応援協議会子育て環境部会 ・ 部会委員（稲見部会長・神吉委員・岡本委員・丸畑委員） ・ 事務局（子育て支援課 井上・中西） ・ 道路河川課（神木）※公園緑地グループ
日 時	平成 28 年 11 月 30 日（水）9：00～13：30
場 所	御立公園（姫路市御立 4 丁目 1766-1）
目 的	大型遊具の概念やイメージを認知し、第 2 回部会での協議につなげるため

1	面白いと感じた遊具、設計で工夫している点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 木登り遊具（気が折れる心配せずに木登りが体験できる）【1】 ・ 線路を模した遊歩道【2】 ・ 健康歩道（足つぼ）【3】 ・ 船の探検を疑似体験できるような作り【4】 ・ 階段の寸法が子どもの足幅になっている（反面、大人や高齢者は踏み外しそう） ・ ストレッチのできるベンチ【5】 ・ 親同士がお喋りできるテーブル【6】 ・ 低学年、高学年の遊具が通路でつながっており、親が見守りやすく、身体能力に応じて、少し難しい遊具にチャレンジしやすく成長につながると感じた ・ 船の遊具のネットやシート製のすべり台【7】 ・ 細かな部分がリアルに作られており、見ても面白い ・ 健康遊具は通常のベンチとしても使えてシンプルで良かった ・ ローラーすべり台が良かった（すべる面が鉄板製は夏場になると熱くて火傷になることがあるため） ・ 船の遊具は、機能的で多目的に利用できるように工夫されており、年少の子どもたちが楽しく遊んでいた ・ ロケットの遊具は、ジャングルジム、すべり台、木登りの機能等があり、複合遊具として工夫されていた【8】 ・ クライミング用ネットの網目が細かいなどの配慮 ・ すべり台でも鉄製、プラスチック製、ローラー式、ビニール製など多種類で面白い 	

【 】の数字は写真の番号

2 危険だと感じた遊具や改善したら良いと思った場所

- ・ゴム製グリップの劣化で金属がむき出しになっていたが、構造自体が危険ということではない
- ・何度も踏みしめる土の部分は、窪地となり雨天の後は水たまりが出来ている【9】
- ・公園内の照明が少ないように感じた。(夕暮れ時から夜間が物騒)
- ・リードをしていない犬の散歩
- ・多少の危険性の中で遊ぶことで身体的、精神的に成長しながら子ども同士のコミュニケーションを深めて欲しい

3 遊具以外の施設で、三木市でも整備したらよいと思ったもの

- ・ベンチが多く配置されているのが良かった
- ・樹木を囲むようなベンチ【10】
- ・公園内の樹木や昆虫などのネームプレート【11】
- ・子ども用の洋式トイレ
- ・トランポリンの様なエアマット(別の公園)
- ・日よけ付きのベンチ【12】
- ・トイレは複数でおむつ替えシート付きが良い
- ・広い芝生広場(ピクニックし易そう)
- ・トイレが複数あり、男女、多目的に分かれていて使いやすそう
- ・全体的な雰囲気配慮されたエリア分けがされていた

4 その他

- ・子どもの居場所が分かるように死角を少なくするのが良い
- ・どんぐり拾いをして遊べると楽しい
- ・遊具以外でも、遊ぶアイデアやイベントを企画して、多世代が集まるような仕掛けづくりが必要だと思う
- ・軽食を提供できるようなお店があれば滞在時間も長くなり、公園の利用率も上がりそう
- ・自動販売機があれば子供連れには助かる
- ・公園規模に見合った駐車場が必要
- ・公園内の築山が良かった
- ・芝生やラバー等の地面は汚れを気にせずに遊べる

視察のまとめ

視察は、次の三つの項目「①面白いと感じた遊具」「②危険だと感じた遊具の構造」「③遊具以外で三木市でも整備したら良いと思う設備」を着眼点と定めて実施しました。

面白いと感じた遊具は、好みの問題ですので十人十色ですが、相対的に近隣の公園で見かけない遊具（木登りタイプ）に目を引かれたり、遊ぶことで日常とは違う異空間を体験できるような遊具（船型）が面白いという結論であったと思います。

また、健康器具も実際に使用して、何センチ上体反らしできるか、何センチ前屈できるかなどと楽しんでいる親子がおられ、使ってみると案外楽しめましたし、反復利用することで身体の変化も分かることから、繰り返し公園に来て利用して欲しいと思いました。

危険性に関しては、近年に整備された遊具は、遊具メーカーがこれまでの整備や事故の事例を基に、安全で楽しく遊び、憩える公園づくりのノウハウを蓄積し、遊具の設計・施行を行っているため、特に危険な構造だと感じる遊具はありませんでした。

遊具以外で三木市でも整備したら良いと思った施設は、ベンチ、トイレ、自動販売機など、主に休憩に関する施設に意識が集中したようでした。

今回の視察を行った経験を基に、第2回子育て環境部会では、プロポーザルで選考され、市と契約した遊具メーカーから、プロポーザル時と同じプレゼンを受け、ワークショップ形式でディスカッションし、整備案について意見をいただきたいと考えています。

【写真】



1

木登りできた！



2

線路風の遊歩道



3

足つぼを刺激



4

リアルな船型の遊具



5

ストレッチのできるベンチ



6

テーブルとベンチ



7

ネット

シート

ローラーすべり台



8

ロケット型複合遊具



----- (視察状況、活用事例、その他) -----



対象年齢の表示



木登りタイプの遊具を実際に体験



使用の限界点を明示



注意事項の看板



健康遊具で楽しむ親子
(上体反らし)



健康遊具で楽しむ親子
(前屈)



健康歩道の利用状況



健康歩道の足つぼ表示



公園アプローチ（入口）



公園内の看板



公園内の看板



公園内の看板



日向ぼっこを
楽しむ老夫婦と犬



木登りタイプの遊具は3本



多目的トイレ



SLの静態保存展示

